

## ブレイン・ストーミング・セッションについて

### 1. 背景（今回ブレイン・ストーミング形式で開催したことについて）

釧路湿原自然再生協議会は、様々な立場の人々により湿原の保全と再生に関する構想を策定し、実施計画を協議するため、地域の多様な主体の参画を得て組織されています。

しかし、これまで2回の協議会では100名規模という人数的な制約もあり、事務局からの説明とそれに対する質問という構図に陥りがちで、関係者間の意見交換の深度は必ずしも満足できるものではありませんでした。

今回の第3回釧路湿原自然再生協議会では、上記の課題を解消し一方通行のやり取りになることを避けるために、小さなテーブルごとの議論を積み重ねるブレイン・ストーミング形式を採用し、協議会に参加する多様な関係者の中で自由活発な意見交換が実現できるように配慮したものです。

### 2. ブレイン・ストーミング形式開催の目的

釧路湿原自然再生協議会に参加する多様な関係者が、それぞれの立場の違い、共通点並びに意見の多様性を認識し、釧路湿原が抱える課題とそれに適切に対処するための方策を見出すと共に、セッションを通じて認識や情報を共有し、各々の連携や協働の環境を醸成することを目的とするものです。

その結果、地域住民、関係行政、専門家、NGO/NPOなど多様な関係者が各々の立場で果たすべき役割を認識し、現実的で責任ある協調的な行動に取り組むことが期待されます。

さらに、今後国内外の各地で展開されることが予想される、湿原などの自然環境を始めとした天然資源管理への取組みに関する、より多様な関係者が参加した議論のモデル・ケースとして、今後の具体的行動に向けた議論のあり方を国内外に発信するものです。

（ブレイン・ストーミング形式の特徴）

- ・ 参加者全員が議論の中で発言する機会を確保できる。
- ・ 参加者 vs. 運営事務局という一方通行的な構図を避けるのに適している。
- ・ 参加者が問題点、取り組むべき課題、果たすべき役割について共通認識を形成しやすい。

### 3. 期待される成果

- 釧路湿原の抱える課題を認識し、多様な関係者の声に耳を傾けつつ、課題解決に向けて各々が果たすべき役割を認識すること。
- 現実社会における様々な制約を踏まえた優先課題の特定が重要であることを認識し、各々が自らの役割分担に基づき責任ある行動を実施すること。
- 課題と情報の共通認識により、参加者間の連携・協働の環境およびネットワーク

を形成すること。

- ブレイン・ストーミング・セッションにおける議論の内容を釧路湿原自然再生全体構想へ反映すること。

#### 4. 選択したトピック（ブレイン・ストーミングのための質問）

- ・ 釧路湿原の自然再生（保全・再生）はなぜ、どこまで必要なのか。
- ・ 釧路湿原の自然再生に関してもっとも重要な具体的行動は何か。

（全体の進行概要）

会長挨拶 5分	進行方法 説明 5分	■テーマ1 テーブル毎の議論 25分	■テーマ1 各テーブルからの報告 1.5分×8テーブル=12分	■テーマ1 （全体討議） ※時間の都合 により省略	■テーマ2 （全体討議） ※時間の都合 により省略	まとめ 10分
		■テーマ2 テーブル毎の議論 25分	■テーマ2 各テーブルからの報告 1.5分×8テーブル=12分			

#### ※ 座席配置について

協議会のメンバーは、地域住民、関係行政、専門家、NGO/NPO など多岐にわたっています。類似したメンバーが同一テーブルに集まってしまうことを避けるために、メンバーを「個人」「団体」「オブザーバ」「関係行政機関」にグループ分けし、そのグループごとに抽選して席を決定しました。

なお、抽選は公開し、透明性を確保しつつ行いました。